

30号 熱田高同窓会報

発行
愛知県立熱田高等学校
同窓会事務局
TEL(052)-652-5858

同窓会ホームページ
URL:<http://www.atsuta.gr.jp/>

熱田高校ホームページ
URL:<http://www.atsuta-h.aichi-c.ed.jp/>

目次

巻頭文 ----- 1
 変革にむけて 新会長 柿崎賢一
 熱田高校の魅力と特色 ----- 2
 第20代校長 桑山幸久
 定時制課程の今
 定時制教頭 小島徹也

熱田高校の今 ----- 3
 吹奏楽部の再健をめぐして
 吹奏楽部長 2年 中尾心春
 国体への挑戦を通して
 1年 安藤聖華
 全国高校総体に出場して
 陸上 槍投げ 3年 渡邊眺成
 ハンマー投げ 2年 鈴木敦貴
 体育祭と文化祭・修学旅行
 油彩画1点・パステル画2点
 寄贈される
 寄贈者
 11回生 田中和枝(旧姓 竹内)

がんばれ熱校生 ----- 5
 熱田高校の保健室
 45回生 隠岐 歩
 遠音近音
 17回生 加藤哲男
 青春の1ページ
 63回生 中村優花
 中日新聞「考える広場」記事
 21回生 伊藤俊幸

同期会たより ----- 8
 古希同期会を開いて
 19回生 山内喜満男
 人工芝維持保全委員会の報告
 教頭 大家浩靖

事務局たより ----- 8
 寄贈本の紹介
 「新川の川辺で」(油彩画)
 11回生 田中和枝(旧姓 竹内)

同窓会QRコード



体育祭 選手宣誓 令和6年10月24日

変革にむけて

新会長 柿崎賢一(17回生)



熱田高校同窓会
員の皆様におかれ
ましては益々ご清
祥のこととお喜び

申し上げます。私は昭和44年の入
学生、古希を迎えましたが今は「遅
れてやってきた青年」の心境です。
多くの諸先輩の築いてこられた本
会を継続発展させたいと思います。

また新しい時代、新しい世代のた
めの同窓会の新たなルールづくり・
組織づくりが必要になります。私は
変革の渦の中核となつて新しい若い
世代が参加・活動できる組織づくり
を目指すつもりです。

同窓会の新たなルール・組織に
ついてはホームページのインデック
スから、同窓会のDX化の試みを照

会しておりますので一読いただき、
ご意見を賜れば幸いです。

次に創立70周年寄附事業として
「運動場の人工芝化事業」は令和4
年3月末、皆様方のご理解とご尽力
で完成し、熱田高校へ寄贈できまし
た。しかし、3年目を迎えると、修
復や改修が急がれるようになりまし
た。対策として、学校・PTA・サ
ッカー父母会・同窓会の4者で保全
維持会合が3回開催されました。

同窓会では、伝統を引き継ぐ後
輩のため、左記のことを今後検討し
てまいります。

- ・ 費用負担に備える準備として
- ・ 積立基金の制度(実施中)
- ・ 有志寄附の募金制度
- ・ 生前贈与の募金制度

同窓会員の皆様、母校のさらなる
発展に向け、今後も一層のご支援ご
協力をお願い申し上げます。

熱田高校の魅力と特色

校長 桑山幸久



近年は少子化が進み、中学校の卒業生数が十年後には現在から約2割減少することから、県立高校には一層の魅力化・特色化が求められています。

本校の魅力はたくさんありますが、学校行事がその一つとして挙げられます。どの行事でも生徒は自主的に活動し、生き生きとした楽しそうな姿を見せてくれます。

9月には文化祭があり、校内発表と一般公開の2日間わたって、学校全体で盛り上がりました。

また、随所で見られる動画の編集技術の高さや、吹奏楽部による教員ダンスチーム？とのコラボなど文化部の趣向を凝らした発表も好評でした。開催日の前日に行われる有志発表への参加希望者も多く、事前にオーディションが行われるほどでした。私も参加でき、いい思い出になりました。

さらに、PTAによる企画として、恒例の「縁日あつた亭」に加えて、4台のキッチンカーを招致しました。生徒だけでなく、一般

公開に訪れた中学生・友人、保護者の方も大いに満足していただけたと思います。

体育祭は暑さ対策もあり、コロナ禍以降は10月に実施しています。今年は雨により1日順延となりましたが、グラウンドが人工芝でなければ、翌日の実施も難しかったと思われます。公立高校唯一の人工芝グラウンドも本校の特色となっています。

競技は白熱し興奮の連続でしたが、熱心に応援する姿や健闘した仲間を拍手で迎える姿には感動しました。ブロックパフォーマンズ（応援合戦）では、参観に訪れた多くの保護者の方にも練習の成果を見ていただきました。

競技種目の最後を飾る「熱高リレー」には、25名の先生も教員チームとして参加し、最後まで生徒と順位を競いました。先生方の団結力とエネルギーは見事でした。

行事のたびに、同窓会やPTAの方々に学校が支えられていることを強く感じます。関係の皆様からの手厚い支援も熱田高校の特色であると誇らしく思っています。

さらなる発展に向けて、今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

定時制課程の今

教頭 小島徹也



社会のニーズが大きく変化をしている。昨今、本校定時制にも大きなうねりが来ています。愛知県が

県立高校の編成に取り組み始め、全日制・昼間定時制・通信制を生徒の状況によって行き来できるフレキシブルハイスクールや、中高一貫校の導入など次年度から新たな試みが始まります。そのような中で夜間定時制の立ち位置が今後どのように変わっていくのかをしっかりと見定めていかなければなりません。

そのような変化の波の中でも定時制の学習活動では「授業を大切に」をモットーに、落ち着いた学習環境づくりと分かり易い授業を引き続き目指しています。外国籍生徒を含め、多様な背景を持った生徒が在籍しているため、個々の生徒の状況に応じた指導を行っています。生徒たちは毎日少しずつ成長しており、進級するにつれ、授業の雰囲気や取り組み姿勢も良くなっています。

今年度も、生徒たちはHRの時間などを利用して「生徒体験作文」を書きました。3年生伊藤りえさんが昨年度に引き続き学校代表として、第

64回愛知県定時制通信制生徒生活体験発表大会に参加しました。昨年度の結果を上回る上位入賞を果たし「愛知県高等学校文化連盟賞」を受賞しました。代表にならなかった生徒の作文を読んでもそれぞれに抱えている生活や家庭の困難な背景に向き合い、必死に努力を重ねている姿を知ることが出来ました。

また、在籍生徒が4学年で昨年度よりさらに少ない66名であるものの、球技大会や体育祭、文化鑑賞会などにも熱心に取り組み、活気ある学校生活が展開されています。6月の球技大会ではボーリングを実施し9月の文化鑑賞会は映画鑑賞を行いました。また10月の体育祭では生徒会役員が中心となって準備や当日の運営を

球技大会（ボーリング競技）



行い、教員もチームを作って4年生との試合にのぞむなど、校内が一つになって実施できた行事だと思います。

11月中旬実施の3年生修学旅行は、コロナ禍を乗り越え、昨年度は数年ぶりに沖縄に戻りましたが、今年度は物価高騰の影響と当該学年の人数が少ないことを鑑み、関西方面への震災学習、歴史学習が中心となるコースになりました。子供たちとの識見が大きく広がる実りある2泊3日になることを期待しています。



修学旅行にて (USJ)

今後、多くの生徒が「熱田高校定時制に入学して良かった、充実した学校生活だった」という思いを抱いてくれる学校でありたいと願っています。

熱田高校の今

吹奏楽部の再建をめざして

吹奏楽部長 2年 中尾心春



私たち吹奏楽部は、1年生16名・2年生15名の31人で活動しています。吹奏楽

部は東海大会出場を幾度となく成し遂げた伝統ある部活です。伝統校ゆえに、現在学校にある楽器は老朽化の進んだ60年以上使っている楽器が3分の2を占めています。何度も修復し直してギリギリの状態で使い回しているのが現状です。

そんな現状を少しでも良くするために今年の夏、クラウドファンディングで支援金を募りました。その結果、当初の目的金額を大きく上回るご支援を多くの方々にいただきました。そのおかげで老朽化の深刻だったティンパニやバリトンサクスを購入することができました。

また、吹奏楽コンクールの地区大会では金賞をいただき、13年振りに愛知県大会に出場することができました。ただ、解決したのはごく一部の楽器で全ての楽器を使うことはできません。私たちは更なる飛躍を目指し、工夫しながら練習に取り組



み邁進していきま

す。伝統ある熱田高校吹奏楽部を私たちが守り、発展させていきたいと思います。暖かい

ご声援をよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

国体への挑戦を通して

1年 安藤 聖華



この度、アーテイステックスイミング(旧シンクロナイズドスイミング)愛知県代表

として国体に出場する貴重な経験をさせていただきました。日々の練習は決して楽ではなく学業との両立も大変でした。仲間や先生方、そして

家族の支えがあっからこそ続けることができました。

国体の舞台は普段の試合とは異なる特別な雰囲気にもまれていたため今までが一番と言っているほど緊張していました。特に出番が一番最後だったこともあり、試合前には大きなプレッシャーを感じました。これまでの努力を信じ、全力を尽くすことを心がけました。その結果として準優勝という期待以上の結果を得ることができました。



銀メダル 本人左側

この経験を通して学んだのは困難を乗り越えることで得られる達成感と自分自身の成長です。これまでいつも思い通りの結果になった訳ではありませんでしたが、自分を信じ努力し続けることで成功に結びつくと感じました。そして、支えてくださり応援してくださった方への感謝を忘れずに、今回学んだ経験を活かしてこれからの成長に繋げていきたいと思えます。

全国高校総体に出場して

(7月28日～8月1日)

福岡市東平尾公園博多の森

陸上競技場

槍投げ 3年 渡邊眺成

記録 東海総体 60 m 85 4位

全国総体 55 m 85 13位

ハンマー投げ 2年 鈴木敦貴

記録 東海総体 53 m 30 6位

全国総体 53 m 43 20位

体育祭

(10月24日)



文化祭

(9月13日～14日)



修学旅行

(9月25日～27日)

広島 関西方面



油彩画1・パステル画2点 寄贈される

令和6年8月5日画家田中和枝さん(11回生)から、油彩画1・パステル画2点が本校に寄贈された。打ち合わせは田中さん本人と、学校側から大家浩靖教頭・成田雅英教頭・伊藤みよこ事務長、同窓会側から執行役員青木宏憲(23回生)の5人で、設置場所・施行費用などについて検討され、11月9日絵画取り付けの施行工事が実施された。

田中さんと同窓会との出会いは、同窓会報20号の「がんばれ熱高生」の原稿依頼からはじまる。会報20号から今回の30号で会報を飾ったパステル画・油彩画は11点になる。

熱田高校でも大学受験結果が求められる狭間の中で、芸術教育は軽視され、書道・美術・音楽教諭が退職すると専任教諭は置かれなくなった。芸術教育が青年期に必要なことは言うまでもない。同窓会は、会報を彩った田中さんのパステル画・油彩画の寄贈に賛同した。情操教育の一助となると思ったからである。(文責 谷澤 伸)

作品と展示場所

2棟2階 昇降口付近

2棟2階西側おどり場

3棟～4棟わたり2階



「新川の川辺」

サイズ80cm×90cm
油彩画(会報30号掲載)

「窓辺」

サイズ68cm×60cm
パステル画
(会報21号掲載)

「蓮の実」

サイズ60cm×70cm
パステル画
(会報28号掲載)



がんばれ熱高生

今回は本校卒業生3名に原稿を依頼しました。

45回生の隠岐歩さんは、母校の養護教諭としており、養護教諭としての考え方がよくわかります。17回生の加藤哲男氏は日本画家として知られ、高校生時代からの夢を
実現され活躍しています。

63回生の中村優花さんの文章からは高校時代に培った友人との絆がよく伝わってきます。最後に21回生の伊藤俊幸氏が、中日新聞『考える広場』に「核抑止と紛争」というテーマで語られていますので記事を紹介いたします。伊藤俊幸氏は、現在金沢工業大虎ノ門大学院教授をしています。

熱田高校の保健室

45回生 隠岐 歩



25年前養護教諭を志し卒業した。なんとなく、熱田高校に戻ってくる気がしていた。当

時は土曜日も半日授業があったので、週6日部活漬けであった。朝練のために6時半に家を出て、帰宅は20時。そんな生活が高校3年生の夏休み前まで続いた。部活を引退し進路を考える時期になった。
テニス部の顧問であり養護教諭だった榎原千賀子先生の「養護教諭に

なったら」の一言で決まった。高校生だった私から見て養護教諭は「生徒と楽しく話をして、部活指導でテニスをしている」だった。なんて素敵な職業だろう。目指すものが決まった。そして今、熱田高校の養護教諭として生徒と話をして、テニス部の顧問もさせていただいている。

熱田高校に赴任してから様々なことを生徒と共にしてきた、AEDの看板を演劇部の小道具担当の生徒と作った。毎日昼休みになると居場所を求めて保健室に来る生徒と、野菜を育てて収穫したり、保健室の物干し竿をピンクのペンキで塗ったりした。どうしても気分が落ち込む梅雨

時期には、瓶に氷砂糖と青梅を入れて、「この氷砂糖が溶けて梅ジュースになる頃には夏休みだね」と瓶を眺めて過ごした。保健室常連の生徒と1学期の終業式の日梅ジュースで乾杯した。

テニス部でも、一緒にテニスをすること以外に、夏休みに2泊3日の合宿に行ったり、冬休みにはマネージャーと一緒に豚汁を作り部員たちと食べたり、とても楽しく顧問をしている。



令和6年度 テニス部男女合同合宿

それもこれも、相方の養護教諭や同じテニス部の顧問の方々のおかげである。感謝しかない。

人は、一緒に何かをすることで友達ではない仲間となる。そうすると色々な話をするようになる。それは生徒同士・教員同士・生徒と教員、どの関係においても同じではないだろうか。だから保健室には毎日多くの生徒が話をしにやってくる。

時には「先生たちいつもお喋りして暇だね。」と言う生徒もいるが、「最高の誉め言葉と受取っておこう。たまたま保健室で出会った者同士と一緒に悩んだり、共感したりすることもある。成績のことで悩んでいる2年生に勉強方法を教える3年生、高校生活に慣れなくて落ち込んでいる1年生に大丈夫だよと励ます2年生。そういう姿を見ると、熱田高校生は素敵だと思う。話をするとな人の輪は広がる。今まで一人で悩んで苦しんでいた気持ちが和らぐ。

養護教諭は、「つなげる」職業だと思っている。病気や傷を治すことはできないし、悩みを解決できるわけではない。しかし聴くことはできる。「耳・目・心」を(＋たす)という意味での「聴く」である。1人で痛みを抱えなくていい、仲間がいるではないか悲しいこと・辛いこと・楽しいこと・嬉しいことを、誰かと「つながる」ことのできる場所が学校だ。これからも保健室から人と人をつなぐことをしていきたい。

遠音近音

17回生 加藤哲男



現在日本画家として活動しています。所属している団体は3つで、1つ目は

「白士会」という日本画の公募団体で初出品から45年程経ちます。2つ目は美術家集団の「ボン・デ・ザール」という会で、日本画や油彩画などのジャンルを問わず集まったメンバーによる展覧会です。3つ目は「新風景の会」という展覧会で、35年程続いた「風景の会」の後を継いで発足した、主に風景画を描いている作家による展覧会です。というわけで、古希を迎えた現在も忙しい毎日を送っています。

そもそも絵を始めたきっかけは、高校入学の祝いに叔父からもらった油絵の道具ということになります。その勢いで美術部に所属し、勉強そっちのけで絵を描いていました。しかし、3年生になると進学という現実が目の前にちらつきます。ただ油絵よりも日本画に気持ちが移りだしたのもこの頃で、思い切って日本画志望に切り替えました。

浪人のあと入学した大学では、良き師に巡り会い、絵を続けていく覚悟ができたように思います。とは

言え画家で食べていけるわけでもないの、教職につき、不十分ながら絵の制作を続けてきました。

体力のあるうちは、仕事が終わってから夜中の2時・3時まで描いていましたが、限界を感じるようになり、定年を待たず退職することを選びました。それはやはり正解で、それまでとは違った世界が広がってきたように思います。冒頭で紹介した展覧会の他にも個展、グループ展や白士会の事務所、様々な地方展の審査員などがあり、余生を謳歌するとはいきませんが、これらの合間を縫って国内外の写生旅行に出かけることが活力の源になっています。昨



東京都美術館 作品の前で 2024.8.23

年はインドに出かけましたが美術部の顧問でいらした今西英雄先生も同行され、50年ぶりにスケッチを楽しめました。また、高校のクラスメイトも展覧会に来てくれるようになり、嬉しい限りです。

今後の展覧会ですが、1月にノリタケの森ギャラリーで2つ。3月に岡崎市美術館で春季白士会展。5月には栄のギャラリー彩で個展。7月、8月に愛知県美術館、9月には千種区の古川美術館で「新風景の会」が予定されており、自分が住んでいる岩倉市でも2回ほど展示があります。機会があれば足をお運びいただければ幸いです。

青春の1ページ

63回生 中村優花



私は今社会人として3年目になりますが、一番楽しかった時はいつと聞かれると必ず高校時代と答えています。1年生の頃は学校生活に慣れることから始まりましたが、その分何もかもが新鮮でした。クラスメイトがほとんど初対

面の状況にも関わらず、仲良くなるのに時間はかかりませんでした。その後2年・3年とクラスは変わりま



大切な陸上部OBの仲間とともに

したが、本当にどの学年のクラスも大好きで一生大切にしたい友達を得ることかできました。

熱田高校の良さは私と同じように友達を大切にできる人が集まっているところではないかと思えます。社会人になった今だから感じますが今でも高校の友達と頻繁に集まっているのは当たり前なことではないと思います。今でも何かあった時に相談したいのは熱田高校の友達で、何かを報告したい時に浮かぶのは熱田高校の友達です。

私が友達を大切にしようとした決定的に感じた瞬間があります。それは3年生の大学受験勉強をしていた頃です。私のクラスでは推薦入試を利用する人が多く、一般入試の勉強をしている人が少なかったこともあり仲良くしているグループの仲間達も秋ごろには受験が終わっています。

そんな中で私は一般受験の勉強をしていたため、孤独に感じることもありました。しかし、周りの友達も受験が終わっているにも関わらず一緒に勉強をしてくれたり受験が終わった日にはお祝いをしてくれたりと、精神的に支えてもらいました。その瞬間にこの人たちは一生大切にすべきだと確信しました。

熱田高校での生活で一番濃い思い出があるのはやはり部活動です、きつい練習やスランプを乗り越えることができたのも仲間の存在があったからだと強く思います。皆が一生懸命に練習していたからこそ衝突することもありました、そのおかげで自分自身も皆も成長することができたのではないかと思います。この写真は部活動の仲間と集まった時の写真で、毎年必ず全員が集まっています。中には結婚している人もいて大人になったなと感じますが、結婚してからもうこうして頻繁に集まることのできているということを楽しんでいます。

熱田高に入っていないければこんなに大好きな友達に出会うことはできなかったのではないかと思います。熱高生の皆さんには今の出会いを大切に全力で高校生活を楽しんでほしいです。

中日新聞 8月5日 朝刊掲載

21回生 伊藤俊幸



「通常戦争」止められず

歴史的に見ると、核兵器で抑止できるのは「核戦争」だけというところがわかります。

戦争は抑止できないことが証明されたのです。

核保有国同士が使うと、お互い全滅します。これを「相互確証破壊」といいます。冷戦下で核は米ソともに基本的に使えない兵器になったのです。その結果、通常兵器による戦争を止めることができず、ベトナム戦争やアフガニスタン侵攻は起きたのです。つまり、核兵器では「通常

戦争」は抑止できないことが証明されたのです。先日、中国の駐日大使が日台関係を巡り中国分裂に加担すれば「日本の民衆が火の中に引きずり込まれる」と発言しました。これは核兵器を撃ち込むぞという核恫喝です。これに対して、「やったらおまえらも火の海になるぞ」と脅し返せるのは、核兵器を持つにしている米国だけです。中国は、日本に対して核恫

喝を何度もしてきました。核を持ってない日本が、屈しないためには、ミサイル防衛に加え、相手の発射基地などに対する反撃能力を持つことが必要です。「核を使ったら痛い目に遭うよ」と通常兵器で抑止する。米国の「核の傘」とともに日本の意思を示してやめさせる必要があります。日本の周りで起きる可能性があるのは台湾有事と朝鮮半島有事ですが、どちらも通常戦争でしょう。両有事に伴って「日本攻撃」が行われたいためには、やはり通常兵器による抑止が必要です。攻撃してきた相手国に対する反撃は、国際法上認められた自衛権の範疇なのですから。

一方で、核なき世界の実現を目指す核兵器禁止条約は、日本政府も批准し、唯一の被



いとう・としゆき 1958年、愛知県生まれ。潜水艦はやしお艦長、在米大使館防衛駐在官、統合幕僚学校長、海自呉地方総監など歴任。金沢工業大虎ノ門大学院教授。専門は安全保障、危機管理、組織論。

元海将 伊藤俊幸さん

爆国として堂々と核廃絶を主張すべきでしょう。国際法は「世界はこうあるべきだ」という理想を規範にしたものです。国連憲章において、他国に対する「国家による武力行使」は禁止されているのですから、「核廃絶」の国際法も作るべきなのです。

各国は、国際法の存在を踏まえつつ、自国の国益を守るため国際政治を考えます。日本周辺には「核保有独裁国」が三つあるのは事実です。国際政治上、米国の「核の傘」による「核抑止」が必要と説明すればよいのです。

広島原爆死没者慰霊碑には「過ちは繰返さませぬから」と刻まれています。日本が核の保有やシェアリングを選択できない国である以上、通常兵器による抑止力を高めて、周囲の国に「過ちを犯させない」ことが大切だと私は考えます。

(聞き手・辻潤智之)

同期会たより

古希同期会を開いて

19回生 山内喜満男

古希同期会は、令和6年10月25日やつと開催できました。コロナ禍を乗り越えて、平成27年の「還暦同期会」から9年振りの集い。参加 62名。会場は懐かしい顔ぶれに笑顔が溢れ、思い出話に花が咲き、楽しさに記念撮影を忘れるほど盛会でした。



若き日の面影を残しながらもみな髪の色が増し、年月の流れを感じました。異なる環境で経験を重ねてきたこと・病気や困難に向き合いながらも乗り越えてきた話を聞くに、その人生の歩みに感慨深い思いがこみ上げました。話を通じ、健康であることの大切さを改めて感じる事となりましたが、楽しい時間はあっという間に過ぎ、別れも名残惜しいが再び集まれる仲間がいることは、何よりの財産だと力強く感じました。次回の再会を楽しみに笑顔と感激に満ちた一日となりました。

人工芝維持保全委員会

設立の経過報告

教頭 大家浩靖

運動場の人工芝化は、天候に左右されず教育活動が効果的に実施、本校の魅力化増進の一つになっております。しかし、人工芝運動場を安定状態で維持保全を図るには、多額の経費が必要になります。このため、学校・PTA・サッカー部父母会・同窓会が一丸となって人工芝維持保全委員会を設立する運びとなりました。5・7月に各代表者が集い、準備委員会を開催、委員会は他県公立高校で人工芝を設置運営している高校の情報収集・調査などを行いました。

10月同窓会・PTA顧問が共同代表となり『第1回愛知県立熱田高等学校人工芝維持保全委員会』を発足させました。今後は人工芝維持経費の捻出方法が最大の課題となります。また生徒・保護者によるアンケート調査を通して人工芝の新たな活用方法や地域社会との連携強化によって、人工芝を通して熱田高校の魅力を発信できる組織運営も必要と委員会は考えております。

事務局たより

「新川の川辺で」(油彩画30号)



熱田高校にバスで通学していた頃いつもこの川を渡っていたいつまでも変わらない心のふるさと

11回生 田中和枝(旧姓竹内)

『寄贈本書庫』(図書館)



寄贈本の紹介

同窓会では本人が執筆し、製本化した著書を図書館の寄贈本書庫に収納しています。会報では寄贈本を紹介していきますので寄贈よろしくお願ひします。

名古屋の童謡運動

動誌

8回生

戸苺恭典



病葉(俳句と真)

7回生 野村京子(旧姓津川)

句集 柿の花

11回生 松永敏枝(旧姓江口)



訃報

深谷圭一郎 2回生 令4・3・17
木下 功 5回生 令5・3・1
岡 正廣 21回生 令5・8・27
ご逝去に接し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。と共にお知らせいたします。

クラス幹事の皆様へ

訃報は悲しい出来事ですが、事務局まで葉書でご連絡ください。(係より)